

中国のセクシャルマイノリティ支援 — III

劉 強 (リュウ キョウ)

立命館大学大学院 人間科学研究科

前回まで

今回は、中国のセクシャルマイノリティの支援団体である“Trueself”の概要及び展開する活動の内容を簡単に紹介した。

“Trueself”はセクシャルマイノリティだけでなく、彼/彼女らの友人や家族に対して、多様な支援活動を行なっている。今回はその活動内容の一つであるホットラインについて触れていきたい。

ホットラインにおける支援

“Trueself”のホットラインを見つける方法はいくつかある。例えば、当支援団体のホームページからアクセスすることができ、サイト内に電話番号が掲示されている。下記の画像のように、受付時間及び対応するサービスが表記されている。



また、SNS の公式アカウントからでもアクセスできる。いくつかの項目ボタンの中から“ホットライン”ボタンをクリックすると、このような画像が送られてくる。



ホットラインは全国向けのものであり、現在、月曜日から土曜日までは親ボランティアの当直、日曜日は心理カウンセラーの当直になっている。ある若手のボランティア曰く、かつて若者ボランティア(つまりセクシャルマイノリティ本人)もホットライ

ンの受付を行っていたが、現在、その活動は停止となった。その理由は、相談希望者の多くは親ボランティアとの交流を期待していたためである。現在は親ボランティアが電話受付を行う際、必要に応じて若者ボランティアを希望者に紹介することもあるそうだ。

こちらのホットラインの受付時間は毎日午後8時半から10時半までである。1人当たりの相談時間はおよそ30分前後である。期間中は1人のボランティアが待機し、担当は事前に決められている。担当者は日々の相談記録を作成し、担当者間で情報共有を常に行っている。

対応できる内容としては、セクシャルマイノリティの自己受容、セクシャルマイノリティに対しての家族の受容、またカミングアウトする際の相談などである。

相談者の多くはセクシャルマイノリティやセクシャルマイノリティを持つ親である。セクシャルマイノリティの質問の多くはカミングアウトをどうすれば良いか、または自身の恋愛についての相談が多いようで、親の場合はもっぱら自身の体験を話すことに目的がおかれる。

ボランティアが対応する際、相談者の話を共感的な態度で聞き、そしてカミングアウトという出来事を肯定的に捉える。カミングアウトをした、あるいはしようとするセクシャルマイノリティに対して、カミングアウトは単なる一方的な打ち明けではなく、双方向的のものであることを強調し、さらにカミングアウト後の親との継続的な話し合いの重要性を強調する。

しかし、限られた時間内では十分フォローできることが難しいから、相談者に個別の

連絡先を追加してもらうことに心をかけて話を聞いている。つまり、ボランティアは長期支援に繋げるために努力している。

このような支援はカミングアウトで悩まれるセクシャルマイノリティに相談できる窓口を提供し、また、子どもにカミングアウトされ、周囲に同じ経験を持つ人がいない親にとって、ホットラインを通じて自分と同じ経験を持つ人との出会いは貴重であり、社会的資源と言えるだろう。そして、相談者を今後の支援対象に発展し、支援を継続的提供することにもつながる。

今後の予定

“Trueself”は最近、カミングアウトガイドブックを作成し、販売している。それを取り寄せし、次回に紹介したいと考えている。